

# 上和田有機米生産組合だより 11月号



立冬も過ぎ、山形では冷え込む朝晩となりました。二月前までの猛暑が懐かしいようにも思えます。勝手なものです。

九月になっても三十度以上の高温が続いたせいでしょうか、これまでにないようなカメムシの大発生。私たちのお米にもその痕が目立ちます。それでもその暑さは、好天に恵まれたというべきでしょう。収量は平年並みですが、食味は良好です。これまでは平年並みといえ、どこか不足の感もありました。しかし今は安堵の思いに満たされます。震災以後、景色が違って見えるようです。

福島に、山を越えてですが、境を接する高畠町。そのため厳密な放射性物質検査を行います。その結果は不検出。それでも消費者から敬遠されることがあります。ありがたいことです。誰もが加害者でもある痛みのなかで、隣県の(いえ許されるのであれば、隣人と呼ばせてください。)苦難の万分の一でも担わせていただけるかのようです。

今という時は、おそらく時代の転換点。その変化の兆しはここにも現れ始めています。昨年と今年、この逆風のなか上和田有機米生産組合では、二十代の青年が六人も就農しました。新米を、新しい風と光と共に



今までは、会社に勤めながら手伝っていました。今後は農業に力を入れ意匠惨憺(いしょうさんたん)していきたいです。

又、よく考えたうえで、『思いきって実行する』をベースに精進していきたいです。

by 諭

渡部五郎さんの長女の御婿さんの諭さんです。会社員でしたが農家に来られて、稲作の他、乳牛・成牛25頭、仔牛6頭を飼育されています。大変な仕事ですが、とてもがんばっています。

家族構成：本人・妻・長男(心)10ヶ月・父・



ゆうきの里まつりが開催されました。あいにくの雨となりました。組合員の奥様方によるいも煮、玉こんにゃく、上和田米のおにぎりや加工食品・果物・野菜などの販売をしました。横浜の消費者グループの方々にもお手伝いいた